

●女性から見た被災生活のいろいろ

妊婦さんへの対応は？

被災生活で、一番大変なのが妊婦さんです。もしお産が始まったらどこで産んでもらうのかということ、ちゃんと考えていないといけません。父は、被災地にいた時間が長く、これはほんとに困る問題だと言っていました。避難所に救護所はあるんですが、そこでは子どもが怪我したとかその程度の対応しかできません。

プライバシーを守る大切さ

また、男性がその辺でできたとしても、女性にとって恥ずかしく悩んでしまうのがトイレです。避難所のトイレはプライバシーがなく、とても行きづらい。女性は我慢してしまい、膀胱炎になったり、水分を取らないようにしているうち、血流が悪くなって、エコノミークラス症候群になってしまったりします。女性が安心して利用できるトイレの設置は大切です。

洗濯も大変ですが、下着の干し場所が問題です。誰でも見えるところには干せないというのがあります。私たちがボランティアをしているときは、女性の下着干し場をつくってすごく喜ばれました。着替え場所も考えませんとね。体育館の避難所などは仕切りも何もない。あと困るのはお風呂ですね。

女性ならではの支援

また、生理中の方は生理ナプキンがなくなったらどうしようと、いろいろ心配なことが出てくるのです。生理用品は、意外と支給されるのが遅いのです。



あと下着が足りない。下着を送ってくださいというと、男性物のTシャツとかばかりです。ブラジャーだって人によってサイズも違います。女性の下着は、年齢によってもぜんぜん違うのに、そのバリエーションがないですね。

避難生活が長くなってくると、女性にとって大事なものは化粧品です。これがあるのとないのでは、目の輝きが変わるんですよ。そんな生活に直接関係ないものを支給してどうするんだと思われがちですが、女性には大事なことです。スキนครリーム一つでもいいんです。化粧品も何も持たずに、何日も生活をしろと言われたら、女性はかなりつらいと思います。

女性の負担とストレス

それから育児中の女性は大変です。狭い避難所で子どもをどうするか。今後どうやって生活していこうかという中で、家の片付けもしなくてはならない。子どもの面倒を見るというのは、乳幼児じゃなくても大変なことなんです。それに、高齢者の介護ですね。男性は働きに行ってしまう事が多く、家族のことや壊れた家の後始末は残った女性の仕事ということになるので、大変だと思います。そのためにも、子どもには面倒をみってくれる子どものボランティアが必要なんだなというのをすごく感じました。

インフォメーション

災害に備えてのパンフレットなどを活用して、日ごろから災害時にどうすればよいか、どんな準備をすればよいか確認をしておきましょう。

- 福生市防災マップ・多摩川洪水ハザードマップ
市で作成し、全家庭に配布しています。お手元がない場合は、安心安全まちづくり課で差し上げます。また、福生市ホームページ「防災」の「福生市防災マップ・多摩川洪水ハザードマップ」に日本語・英語・中国語・ハングル・ポルトガル語併記の解

説が掲載されています。

●地震がくる前に子どものためにできること —お母さん・お父さんになったあなたへ

(東京都庁 2 階の都民情報ルームで 30 円で販売しています。)

問い合わせ：
安全安心まちづくり課
042-551-1511
(内線 2322・2323)

